

平成 16 年度

第 10 号

SEUシニアクラブ会報

自 立
相互扶助
社会貢献

事務局:長野県諏訪市大和 3-3-5 セイコーエプソン労働組合内 TEL:0266-52-0714 Email:seu_scnt@moon.odn.ne.jp

社会貢献活動特集

上川アダプトプログラムに参加

8 月 30 日(月) 第 1 回清掃活動を実施



(合同庁舎から諏訪湖を望む:対岸が担当区域)

諏訪地区退職者連合の会(事務局長:河西邦夫さん)が、「上川アダプトプログラム」に参加することになり、8月4日、諏訪建設事務所(諏訪合同庁舎内)において調印式が行なわれました。

構成会員である SEU シニアクラブも、社会貢献活動第 3 の柱として、積極的にこの活動に関わって参りますので、会員の皆さんのご参加をお願いいたします。

諏訪湖に注ぐ最大の河川、上川河川敷を対象にした「上川アダプトプログラム」がスタートしたのは昨年 4 月です。諏訪湖河口から鬼場大橋までの約 10 km (22 区画) を 36 団体が参加し、流域周辺のゴミの回収と、帰化植物(アレチウリ)等の除去に取り組んでいます。

「アダプトプログラム」は、ハイウェイに散らかったゴミ対策法として、アメリカで始まった活動です。アダプト(ADOPT)の語源は「養子縁組をする」の意味。縁組した養子を見つめるように、親心で愛情をもって美化に取り組むというもの。日本では 1998 年に始まって、主に海浜、河川、道路などの美化活動に対し、管理者と契約して実施してきました。

今回、退職者連合の会が担当する区間は、諏訪

湖河口の上川大橋から上流の六斗橋までの左岸の通称・通勤バイパス(諏訪湖に向かって左側)約 1.2 km です。

この区間は、以前他の団体が担当していましたが、事情で継続できなくなり、「諏訪地方定年退職者の会」が新たに契約をしたものです。

第一回目の清掃を 8 月 30 日(月)に実施することになりました。

会員の皆さんの積極的な参加をお願いします。

実施日: 8 月 30 日(月曜)**8 時 30 分までにヨットハーバー駐車場に集合****服 装: 帽子・厚手の長シャツ、皮製またはゴム製の手袋が必須アイテムです。****雨天の場合は延期です(後日連絡します)**

【アレチウリ豆知識】

本名:アレチウリ(荒地地瓜)ウリ科。1952 年、アメリカ大陸から静岡県清水港へ密入港。北米原産の帰化植物。半世紀をかけて天竜川を遡り、近年諏訪にデビュー。天竜川下流域ではコムラサキの生息域が深刻な状況になっており、除去活動が進められている。恐るべき繁殖力で、落下した種子の発芽率はなんと 90% 以上!!

一帯の植物はアレチウリに覆われると太陽の光が遮られ、やがて枯れてしまう。そうすると、そこに住んでいる鳥や虫たちも生きていけなくなり、生態系のバランスが崩れてしまう。除去は人の手で 1 本 1 本取り除くしかありません。アレチウリは一年草のため、結実前に抜いてしまえば、翌年の発芽はありません。

お知らせ: 8 月の土曜さろん**日 時: 28 日(土) 午後 1 時 30 分から****会 場: ゆうむ 25 102 号室**

社会貢献活動特集

「西山の里」に清拭布を届ける 老人介護の現場を半日体験

8月3日午前中、社会貢献活動に取り組む「高齢者介護施設の支援チーム」メンバー6人が宮崎会長と同行し、「諏訪市デイサービスセンター西山の里」(諏訪市湖南)に清拭布5000枚を届けました。また通所者の話し相手やカラオケ、入浴後の整髪などのボランティアをおこない、高齢者介護の現場を体験する良い機会となりました。

清拭布(せいしきふ)は、通所者が入浴サービスを受けた後などに、体を拭く布として使用されますが、毎日大量に消費するため、各団体や個人からの寄贈を期待しており、SEUシニアクラブとしてささやかな社会貢献ながら協力したいと取り組んだものです。

会員があらかじめ地域のホテルや旅館ら譲り受けた敷布や浴衣(綿素材)を材料に、20cm四方の布に切り裂いて作ります。土曜さろん開催時のほか、女性会員グループの共同作業や自宅での作業を通じて集約されました。

地域のホテル、旅館との連携による材料確保にも限界があり、この活動を進めていくためには、材料確保が一番の課題のようです。

「西山の里」は、所長の宮澤忠雄氏がエプソンOBであり、SEUシニアクラブの土曜さろんで、介護をテーマにした学習会の講師をお願いしたのを契機に、お付き合いが始まりました。

懇談の中では、9月8日から4日間、地域の行事に参加しにくいお年よりの皆さんに楽しんでいただくとの趣旨で「夏祭り」を催すとの情報をお聞きし、次回は、会員に呼びかけて「わたあめ」「金魚すくい」などのブース運営のお手伝いをする予定です。



宮澤所長からのメッセージ

セイコーの仲間に合えたことと、セイコーの仲間から善意を受けたことに感謝申し上げます。

福祉介護の仕事は奥が深いし、又やるのがいっぱいあります。

高齢化の時代をどのように乗り切るのか、とても答えの出せない、永遠のテーマだと思いますが、出来ることから地道に根気よく、とにかく続けることのような気がします。関心を持ってくれる人、ボランティアさんのささえが、目に見えない効果につながっていることは確かです。

今後の介護保険の行政からの方針等には注目したいものです。なぜなら今後の自分たちのライフワーク(老後を快適な暮らしを)をより豊かなものでありたいからです。

私もここに来て、利用者(認定者)の過ごし方をじかに、またいろいろの人と接して勉強させてもらいました。参考にしつつ今後も頑張りたいと思っています。いろいろと有難うございました。(宮澤忠雄)

社会貢献活動特集

諏訪市社協職員対象に 初級 Word 講座を実施

現役時代に培った技術・技能を生かした分野で社会貢献活動を……との思いが「福祉関連施設を対象にしたIT関連支援」をスタートさせました。

その企画第一弾として、初級 Word 講座を6月に、諏訪市湯小路の「いきいき元気館」に勤務する職員の皆さんを対象に実施しました。

受講者は8名。初心者から一太郎ベテラン?までとPCレベルに差があり、運営には苦労がありましたが、応募を頂いた会員4名がチームワーク良く、講師・サポート役を勤め、無事終了することが出来ました。今回の体験をもとに、継続した活動のあり方を検討していきます。

このほどサンディエゴの海軍棧橋で、ほんものの航空母艦に乗船出来ることになりました。これまでは考えられなかったすごいことです。

その航空母艦とは、第二次大戦後の朝鮮、ベトナムでの動乱（戦争） また 13 年前の湾岸戦争などで実際に戦闘に参加し、活躍した米国の航空母艦ミッドウェイ（USS Midway, CVB-41）です。その空母ミッドウェイが退役後、航空母艦ミュージアムとして一般に公開されることになったのです。

空母ミッドウェイは 1945 年 9 月に、当時としては世界最大の艦船として誕生・進水し、以来 50 年にわたって現役の航空母艦としての役割を果たしました。



この空母は私たち日本と日本人にとっても関係深い船です。1973 年、日本は田中角栄内閣の時代、米海軍がこの空母ミッドウェイを、日本の様々な団体・政党が反対する中、横須賀米軍基地に強行入港させ、以来 27 年間にわたって、横須賀を母港としたからです。そしてこの空母が横須賀に帰港するたびに、核兵器を搭載しているかどうか、その都度、日本では政治問題として大きく取り上げられ注目されました。また、1975 年のサイゴン（ベトナム）陥落の際は、7,000 人以上の避難民を輸送するために使われたことでも有名です。航空母艦ミュージアムとして再出発したこの船は、ハンガー・デッキ、メス・デッキ、

フライト・デッキの三層と司令塔の全部または一部が公開され見学できます。入場者にはイヤホン付きの音声（英語のみ）機器が貸与され、ポイント毎に説明の音が流れるようになっています。

ハンガー・デッキとは甲板下の格納庫のことで、巨大なスペースに各種展示物があります。また、ここには 4-AC スカイホーク、F-14 トムキャットなどの艦載戦闘機も展示されています。メス・デッキでは乗組員のための食堂や休憩室、郵便局などの施設に加え、機械・工具修理室などを見学できます。

フライト・デッキは飛行機の離発艦甲板です。

あまりの大きさに目を見張るばかりであり、ここが海に浮かぶ艦船の上であることをつい忘れるほどです。

まるで超巨大な運動場に入り込んだような錯覚さえします。しかし、そこはまさに飛行甲板であり、着艦時の飛行機が使用する“ひっかけワイヤー”とか、発艦時のカタパルト（飛行機を発進させる装置。射出機）を確認できます。

さらに、フライト・デッキ横に高く聳える司令塔部分を登り、艦の操舵室、通信施設などに立入ることも出来ます。航空母艦は大きいものだということは、誰でもわかっているで



しょうが、実際に乗船し、格納庫や飛行甲板に立ってみれば、その実感は想像を超えるものです。一度は訪れてみる価値があるところと言えましょう。SEU シニアクラブの皆さん、次回ロサンゼルス、サンディエゴ方面においでの際はぜひお立ち寄りください。

【注意】飛行甲板は当然、直射日光下です。そして、時として強い風が吹きます。帽子、ジャケットなどの持参をお奨めします。また、司令塔部分は急で狭い階段（というより、梯子段）です。スニーカー、ズボン（スカートはダメ）など、服装、足回りの準備が必要です。

河合将介 (skawai@earthlink.net)

「社会保障の在り方に関する懇談会」発足 社会保障制度抜本改革への論議スタート

7月30日、労使代表や関係閣僚からなる「社会保障の在り方に関する懇談会」(細田官房長官の私的諮問機関)の第1回会合が首相官邸で開催されました。

懇談会は社会保障制度全般について、税・保険料等の負担と給付の在り方を含め、一体的な見直しを検討します。さらに年内に論点を整理して、2006年度を目途に結論を取りまとめる予定になっています。

【検討項目】

社会保障制度の基本的考え方

- ・ 社会保障制度の国民生活における基本的役割
- ・ 制度の持続可能性、経済や雇用との関係、家族や地域社会の在り方

給付と負担の在り方

- ・ 中期的な観点からの社会保障給付費の目標
- ・ 税、保険料の負担や給付の在り方
- ・ 公的に給付すべき範囲の在り方
- ・ 各制度間の調整の在り方

制度の在り方

- ・ 年金制度の体系の在り方
- ・ 効率的な制度運営の在り方

【懇談会メンバー】

石 弘光(税制調査会会長)

笹森 清(日本労働組合総連合会会長)

潮谷 義子(熊本県知事)

杉田 亮毅(日本新聞協会理事)

西室 泰三(日本経済団体連合会副会長)

宮島 洋(社会保障審議会年金部会長)

<政府側>

内閣官房長官

内閣特命担当大臣(経済財政政策)

総務大臣

財務大臣

厚生労働大臣

経済産業大臣

抜本改革を成し遂げ、揺るぎない制度を確立したい」と強調しました。

懇談会の目的は新しい社会保障制度を作り上げることである

経済財政諮問会議から社会保障改革の論議を独立させて懇談会が中心的な役割を担うべきである

懇談会での結論は社会保障制度の「改革方針」として、その取扱いが答申や意見書等工夫すべきである

懇談会と社会保障審議会の介護・医療部会等との関係は司法制度改革の顧問会議と専門部会との関係のように各審議会での方針等を総合的な観点から議論すべきである

第2回懇談会は、9月10日に開催し、笹森会長からの社会保障改革についての問題提起、少子高齢化問題について論議する予定です。

民主党・年金法廃止法案提出

民主党は第160臨時国会に「年金法廃止法案」を提出しました。内容は、年金改革法を廃止し、2006年度末までに公的年金を一元化する、社会保障庁と国税庁を統合し歳入庁を作る等が柱。

7月4日の衆議院厚生労働委員会では、この法案の審議が行われました。野党は、年金法の成立後に公表された出生率や40ヵ所あまりの条文ミスが明らかになったことを取りあげて年金法の撤回を主張しました。しかし、与党の反対多数で否決されました。

今後民主党は、秋の臨時国会にも廃止法案を改めて提出する予定です。

揺るぎない制度確立を！

懇談会メンバーの、連合・笹森会長は懇談会で以下の通り述べ、「なんとしても社会保障制度の